

カラスウリ



赤く熟した果実の種子はカマキリの頭や大黒天の形をしています。花は夏の夕方、見ている間に開花します。

キカラスウリ



黄色いカラスウリの意味で、根からとったデンプンを天瓜粉といいます。この仲間は、雌雄異株です。

キカラスウリの花



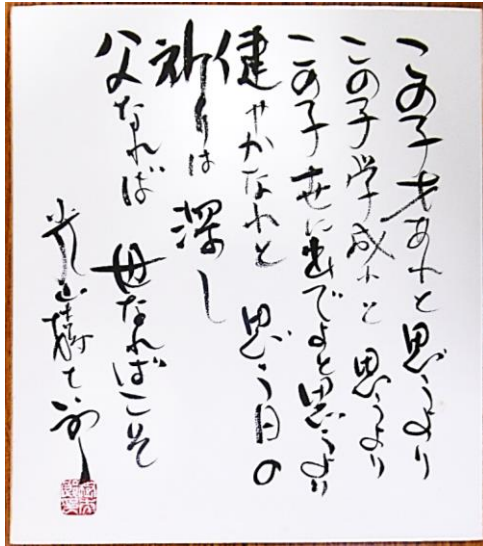
## 目 次

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 巻頭言                      | 2 |
| 教育研究所長 柳下 正祐             |   |
| 1 小さなころみ                 | 3 |
| 「小学校外国語の授業と評価に関する研究」     |   |
| 富士見小学校教諭 板垣 暁子           |   |
| 2 学びの架け橋                 | 4 |
| 「プロジェクト研究」               |   |
| ～おだわらっ子ドリルの作成と活用法に関する研究～ |   |
| 早川小学校総括教諭 力石 清           |   |
| 3 ある教室から                 | 5 |
| 教育指導課指導主事 中山 晋           |   |
| 4 研究所だより                 |   |
| ① 未来学舎                   | 6 |
| ② 教育講演会                  | 7 |
| ③ 尊徳学習研修会                | 8 |
| ④ 新刊本の紹介                 | 8 |

## 言葉のちから

教育研究所長 柳下 正祐

これは小田原の詩人、光山樹太郎先生の詩です。この詩は、わが子を愛する親(家族)の熱く切なる願いを表したものです。



私が初めてこの詩に出会ったのは、平成9年4月三の丸小学校に4年生の担任として赴任した着任式の時でした。案内された応接室に飾られている額を目にしたのが出会いでした。初めて目にしたその時からとりこになり、今でも手帳に書き写したものを時々読み味わっています。

なぜ、この詩をこんなに好きになったのか、それは一つ一つの言葉の中に光山先生ご自身のわが子に対する深い愛情、深く豊かな感性と人生経験を感じ取ることができるからです。そして、それらが先生ご自身の言葉で熱く語られ、流れるような書体の一文字一文字がその思いをさらに強く訴えかけ、私の感性を振るわせるのです。併せて、父としての私にだけでなく教師としての私にも、人との関わり方を問いかけ、生き方を振り返らせ、今後どう生きていけば良いのかという示唆を与えてくれるのです。

言葉(文・文章)は、その人の心、感性を表します。人の思いや願い、喜びや悲しみ、決

断や行動、そして人の生き方そのものを表し、他の人の心を動かします。言葉は、正にその人を映し出す鏡であり、その人自身であると思います。

さて、先日ある小学校に伺ったときに、廊下に掲示してある2年生の絵日記に目が留まりました。絵日記からは、子供たち一人一人の思いや願い、感動や驚きといった心の響きが伝わって来ました。少ない語彙の中から精一杯、心の響きを表現している様子に深い感動を覚えました。また、その日記に記された、日々子供を共感的に理解し、慈しみにあふれた担任ならではのコメントにも感心しました。そこには、温かい関わりと絵日記を通して対話をし、共にその日のことを大切にしていこうとする、深く温かい心の交流が見て取れました。



自分の心の響きを言葉で表したり文章に書いたりすることは、自分を見つめ直し振り返り感性を磨くこと、自分を表し人の心に届けること。そして、明日の自分を見つけ、生き方を見つけることにも繋がると思います。

子供たち一人一人が、言葉を大切にして、『人・もの・こと』との関わりを更に深め自己肯定感を育み、より充実した学校生活を送れるよう、私たち教職員も言葉について今一度見つめ直してみてもいいのではないでしょうか。

## 小学校外国語の授業と評価に関する研究

共同研究「小学校外国語」研究員

長山あかね（三の丸小学校） 齊藤早恵美（足柄小学校）

板垣暁子（富士見小学校） 青山枝里子（豊川小学校）

木村友洋（千代中学校）



### 1 はじめに

平成32年度から「小学校外国語」の教科化が決定されている。本研究では、小田原市内の各小学校で平成32年度よりスムーズに外国語の授業が展開できるよう、カリキュラムを作り、授業モデルや評価方法、さらに小学校から中学校への接続などを提案していく。

### 2 現状

現在小田原市内の小学校では、月に数回のALTや半年間の非常勤職員の専科教員との学習が主になっている。各校での取り組みの差は大きく、学級担任が外国語の学習を行うことについてはどの学校でもまだ進んでいないようだ。担任が外国語の指導をする時間が限られているということも一因だろう。

### 3 外国語の授業づくり

担任がいることへの安心感、身近な人間が英語を話すことへの興味など、学級担任が外国語の授業を行う意義は十分ある。本研究ではALTや専科教員との授業ではなく、学級担任が行う外国語の授業とはどのように行っていくと効果的なのかを示していく。

他言語というのは触れて慣れるだけでなく、それを自分のものとして理解し、使っていくことで身についていくものである。小学校英語での目標も5・6年生は「～できるようにする」という文末表現になっており、英語の表現を理解し、使えることが問われている。そのためには、学習する表現が実際にどのような場面で、どんな目的で使われるのかということを経験し、理解できるような活動を取り入れていかななくてはならない。そこで活動を「英語に触れて慣れる」「英語を使って慣

れ親しむ」「慣れ親しんだ英語で課題を解決する」の3つに分類し、具体的な活動を考えている。

### 4 英語にふれる環境

先に示したように担任が外国語の指導をする時間は少なく、時間の確保も課題である。そこでまずは、日常的に英語にふれる環境を作ることも考えてみたい。毎日の健康観察、給食の献立、月の歌など、様々なところでふれる機会はあるはずである。英語の歌やチャンツ、ジングルなどは短くて印象に残るため、大いに活用してほしい。日常生活の中で英語を耳にする機会が増えると、子供たちの苦手意識や不安も軽減されるだろう。

平成32年度に向けて、自分たち教員が少しずつ授業を行い、教員自身英語に「慣れる」ことが求められているのではないだろうか。外国語を指導する時間が少ない中だとは思いますが、簡単なチャンツやゲームを子供たちと一緒に英語で楽しんでみてはどうだろう。

### 5 これから

今後、英語に触れて慣れ親しむ活動やその活動を使った授業モデルを先生方に提案していく。中学校で意欲的に英語を学ぶ橋渡しができるような内容を示していきたい。そのためにも、中学校での子供たちの姿を見据え、どのような力がついているとよいのか整理するなど、小中の連携を考慮したカリキュラム作りや評価活動も考えながら研究をすすめていきたい。



## プロジェクト研究

～おだわらっ子ドリルの作成と活用法に関する研究～

プロジェクト研究「国語部会」研究員

力石清（早川小学校） 津田裕子（町田小学校）

加賀谷元（報徳小学校） 田中之 （前羽小学校）



### 1 はじめに

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果が本市より公表された。本市では小学校は3年連続で全国平均との差が縮まっており、各学校の教科指導の努力のあとがうかがえる。ただ、漢字に関しては今後の学力向上の課題の一つとしてあげられた。

学力向上は保護者・学校のみならず、子供たちにとっても切実な願いの一つである。特に漢字に関しては子供たちが生涯にわたって関わっていく大切なものである。そのため、国語部会では漢字を身につけていくためにはどうしたらよいかを話し合った。その中で「日常のわずかな時間に取り組める」「繰り返し取り組める」この2つの条件を満たすドリルが身近にあるとよいという考えのもと、ドリルの作成に入ることになった。

### 2 ドリル作成に向けて

本市では平成18年に3年生から6年生向けに作成された「おだわらっ子ワクワク学習帳」（国語編・算数編）が存在する。国語編は漢字と反対語や修飾語などの言語事項の2つを扱ったドリルである。今回ドリルを作成するうえで、以前に時間をかけて作り上げたこのドリルがあるので、これをベースにしていくことを確認した。更に「教科書が変わり、配列が変わっても使える」ドリルを目指して議論した。その結果、漢字に関しては前学年の既習漢字を扱うことにした。これにより、子供たちにとって教科書会

社に関係なく、どの時期でも安心して復習に取り組めるのではないかということになった。

また、問題文に郷土である小田原の地名や特産品、挿絵などを取り入れる工夫をすることで子供たちに親しみやすい教材になってほしいと考えている。

### 3 次年度以降に向けて

先生方は通常の学習で市販のドリルを使っていることが多い。それは、市販のドリルは見やすく、子供たちが現在学習している内容に沿っているため授業で使いやすいからである。それに対して私たち国語部会で作成しているドリルは「自分一人で行き届く」ことを狙いの中心とした。使用する場面を授業の課題が早く終わったときや家庭学習などを想定し、「わずかな時間で」「自分一人で」「繰り返し」取り組める、そんなドリルを提供することで子供たちが自主的に学習に向かうのではないかと考えた。そして、この「おだわらっ子ドリル」が先生方、子供たちに喜ばれ、活用されることを願って作成している。

先生方がおだわらっ子ドリル・市販のドリルそれぞれの良さをうまく組み合わせ活用していくことで、子供たちが漢字に親しみ、国語を好きになるのではないかと考えている。その積み重ねが学力向上につながっていくと願っている。



## 授業に数学的活動の楽しさを

教育指導課指導主事 中山 晋



ある小学校での2年生算数の授業、内容は「かさ」についてです。子供たちは前の時間に、形の違う2つの容器に入った液体（オレンジジュースとメロンジュース）を提示されており、どちらが多いか、自分なりの予想を持って授業に臨んでいます。

自分と同じ予想をした友達と3～4人のグループを作り、実験の準備をします。実験では、それぞれ自分が多いと思った方のジュースと、線の引いてあるカップが与えられ、ジュースがカップ何杯分かを図ります。

「もう少し入れて」「あー、入れすぎちゃった」「まだ（ペットボトルに）残っているよ」少しの誤差もないように、みんな真剣な目でカップの中のジュースを見つめています。測り間違えないためには、グループの協力も必要です。

全ての班の実験が終わったところで、黒板の所にいる先生の近くに集まります。実験結果は…メロンジュースはどの班もカップ5杯ずつ、オレンジジュースはどの班も4杯ずつでした。先生がまとめに入ります。「じゃあ、どっちが多かったのかな」「メロンジュース！」「本当に？」

クラス全員がメロンジュースの方が多いと思っています。でも実は、実験で使ったそれぞれのカップは大きさが違うのです。「本当に？」「本当に？」…先生がそれぞれのジュースの入ったカップを近づけていきます。「あれ？」「大きさが違う！」

カップの大きさに気づいた子供たちは、どうすればよいか、改めて自分の考えを言葉にします。「同じカップにしないと」「線を同じにすればいい」

実際にカップを同じにしてみると、ジュースの量は同じだということがわかりました。子供たちは、任意単位で計る際にも単

位をそろえることの大切さが分かったようです。

先生はさらに、任意単位から普遍単位の必要性を教えるために、軽量カップを子供に見せます。「先生が（カップにマジックで）書いた線と違って、デコボコしてないから正確に測れるね」子供たちは、いろいろな視点から、正確な測定の仕方を身に付けていきます。

・・・

理科室でジュース（実際は色水でしたが）を使って、自分たちで実験をする授業は、きっと子供たちの記憶に残ることとなったでしょう。新学習指導要領では、小学校算数科でも「数学的活動」を通した授業づくりを算数科の目標として掲げています。

ただし、実験をすれば「数学的活動」になるというわけではありません。本時のように、「日常の事象から見いだした算数の問題を、具体物等を用いて解決し、結果を確かめる活動（2年生）」を通して、子供たちが数学的活動の楽しさや数学のよさに気づくという「しかけ」が授業では大切です。

また、本時では子供たちの立てた予想を基に授業が進行していきました。その予想を授業の中で自分の目や手を通して実感することが、子供たちのさらなる学ぶ意欲につながります。日常の事象あるいは算数の学習場面の中で見つけた問題を、「数学的な見方・考え方」を活用して解決するような授業が、いろいろな場面で展開されることを期待します。





## おだわら未来学舎

～「教職員としての実践力をみがき、教育への情熱を高める」自己研鑽の場に～

教育指導課指導主事 瀬戸 由里子

今年度も、おだわら未来学舎を年間5回開催します。おだわら未来学舎は、社会が大きく変化し教育環境が変わっていく中で、小田原の子供たちのために、教育への理想と情熱をもった現役教師を支援する場とし、教育現場が抱える様々な課題解決に、積極的に取り組むエネルギーや、教師としての力（学級経営力・授業力・人間力）を高めることを目的としています。

すでに2回開催しましたが、時間外の自主研修にもかかわらず、毎回100名近くの先生方にご参加いただきました。

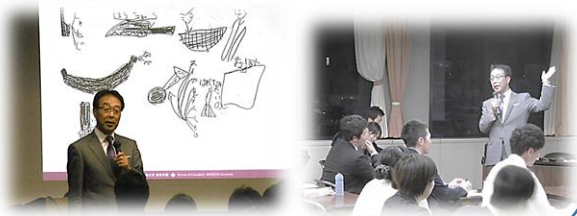
### 第1回 5月9日開催

講師：小林 宏己 先生

「子供のよさが大切にされ、一人一人の可能性が発揮できるような授業づくり」

#### <参加者の声>

「教師の在り方、教室とはどういうものなのか再確認したと同時に、学校だからこそ学べるものがたくさんあることを知り、学級経営が楽しみになりました。」「教師としての存在価値を改めて確認できました。子供一人一人を見取り、その子が生かされる授業作りを心がけたいです。」



### 第2回 9月14日開催

講師：江原 美明 先生

「これからの小学校外国語教育のあり方について」

～笑顔あふれる授業づくり～

#### <参加者の声>

「楽しく、そして分かりやすく実践の方法を教えていただきよかったです。先生が教えてくださった『適度なチャレンジいいかんじ』で、自分も楽しみながら授業ができるように心がけたいです。」「小学校の英語では、『文法をあまり気にせず』ということが分かり少し安心しました。コミュニケーションの基礎として、大切にしたい点がたくさんありました。」



## 《これからの未来学舎》

会場は全て小田原市役所7階大会議室、時間は18:30～20:00です。

| 回   | 開催日            | 講師・内容                                                  |
|-----|----------------|--------------------------------------------------------|
| 第3回 | 平成30年10月12日（金） | 月森 久江 先生<br>「教室でできる特別支援教育とは<br>～教師の気づきと対応について～」        |
| 第4回 | 平成30年11月16日（金） | 矢崎 良明 先生<br>「信頼される学校をめざして<br>～保護者や地域の方との信頼関係を築く秘訣～」    |
| 第5回 | 平成31年 1月16日（水） | 柳家 三三 氏<br>「落語家（真打）として（また、小田原人として）子供を育てる教職員に伝えたいこと」（仮） |

\*参加者はその都度募集しています。申し込みは学校単位、個人単位のいずれでも結構です。

自己研鑽の機会として、ぜひご参加ください。



平成30年度の教育講演会に、親野 智可等 先生をお迎えし、「楽しみながら子供の人間力と学力を伸ばす にとっておきの方法」という演題でご講演いただきました。

ご自身の体験を交えてのお話は、実践してみたいと思える事例が満載でした。ICT機器を使わず、お話だけの講演会は、「聞く力」が磨かれた1時間半でした。講演内容をまとめましたので、当日配付しました資料とあわせてご覧ください。



#### ご自身の経験から

子供たちと心がかけ離れているのに仲間に誘われ、持ち上がりで担任になる。



担任発表の時、子供たちから「ノー」を突きつけられる。人生のどん底を味わう。



何とか1年間で過ごす、教師として人間として深く反省する。



#### 何でこうなったのか

「すべては自分が原因」  
しかりすぎ。否定的な言葉のオンパレード。



#### しからずにすむ工夫を

##### 方法とことばの工夫

例：提出物について

- ・ 小黒板に書く～声に出して読ませる。
- ・ 未提出者へ黄色い画用紙に書いた紙を机上に置く。
- ・ それでも出さない子には、癒し系の子に声をかけさせ提出させるようにする。

##### 他者信頼感、自己肯定感を育てる

- ・ 育ちを長い目で見える。
- ・ 子供ができないことはやってあげる。恩着せがましいことを言わない。
- ・ 手伝ってあげるから一緒にやろう。たずなさばき
- ・ 否定的にしからない。

##### 共感に徹する

- ・ まず聞いてもらえると子供はすっきりする。
- ・ 共感と安易な同調を区別する。「遊びたいね」と言いながら遊ばせない。
- ・ 手がかかる子は男子脳、後で良いものがでるので長い目で見える。

ストレスは弱いところにでます。自分なりの解消法をもちましょう。

##### 親野先生からのアドバイス

ストレスを感じたら上手に行動しよう  
腹式深呼吸を意識して行おう  
意味不明な音声をだしてみよう





## 尊徳学習研修会

教育指導課専門監 秋山 和美



二宮尊徳翁は小田原ゆかりの日本を代表する人物の一人です。尊徳翁の実績等を講話や演習を通して研修を深め、教職員としての資質と実践力の向上を図るとともに、尊徳学習の推進に役立てることを目的に実施しています。報徳、積小偉大、道徳経済一元、一円観、一円融合等の尊徳翁の教えは、人生の道しるべ、教訓になると思います。



今年度も8月3日に尊徳記念館において、ボランティア解説員の下澤先生に講話や生家等の案内をしていただき、尊徳翁について学ぶことができました。参加された先生方の声の一部を紹介します。

- ・下澤先生の豊富な知識と巧みな話術で、楽しみながら学ぶことができました。
- ・初めて知ることばかりで、大変勉強になりました。私も二宮尊徳翁の生き方をもっと学んで、自分の生き方につなげていきたいです。
- ・二宮尊徳翁のことを深く知ることができてよかったです。今後の学習に役立てていきたいです。
- ・二宮尊徳翁について、DVDを見たり館内見学したりすることができ、とても勉強になりました。また、たくさんお話を聞くことができてよかったです。
- ・二宮尊徳翁の考えを心に刻んで、子供たちにも自分の行動をもって伝えたいです。
- ・二宮尊徳翁について、さらに深く知りたいと思いました。
- ・県外から来たので初めて尊徳についての学習を行いますが、児童に伝えていきたい内容がたくさんありました。
- ・これからの教育活動を、「積小為大」を自分自身のテーマとして頑張っていきたいと思います。
- ・他人に影響を与えた人物の考え方を知り、自分の指導にも活かしていきたいと思います。



## 新刊図書の紹介

～新しく購入した書籍を紹介します～



|    | 書 籍                           | 著 者                  |
|----|-------------------------------|----------------------|
| 1  | どんな子でもぐんぐんやる気が育つ親の力           | 親野智可等                |
| 2  | 子どものやる気を引き出すできる教師の言葉かけマジック    | 諸富祥彦                 |
| 3  | 「A4・1枚」で学校を動かす事例シート82         | 渡辺秀貴                 |
| 4  | 中学・高校で使える学習スキルアップワークシート       | 山崎茂雄                 |
| 5  | 小学校のための法教育12教材                | 日本弁護士連合会市民のための法教育委員会 |
| 6  | パフォーマンス評価で生徒の「資質・能力」を育てる      | 西岡加名恵 他              |
| 7  | 先生のための小学校プログラミング教育がよくわかる本     | 利根川裕太 他              |
| 8  | CSを超える顧客ロイヤリティ                | 顧客ロイヤリティ協会           |
| 9  | イラストと設題で学ぶ 学校のリスクマネジメントワークブック | 坂田仰 他                |
| 10 | 新しい学校事故・事件学                   | 住友剛                  |
| 11 | いじめで死なせない                     | 岸田雪子                 |
| 12 | 問わずにはいられない 学校事故・事件の現場から       | 21の被害者家族             |

小田原教育 第129号 発行日 平成30年10月19日 発行者 教育研究所長 柳下 正祐  
発行所 小田原市教育研究所 〒250-8555 小田原市荻窪 300 番地 TEL 0465-33-1730